

道路交通

Q 広島熊野道路 4年後の無料化の是非



荒瀧 穂積議員

A 〈町長・建設部長〉

県・道路公社・広島市・町の4者協議会で解決する。

〔Q1〕 永年の通勤、通学地獄から町民を救った広島熊野道路が開通して26年。有料でも利用する価値がある優良道である。

また、有無料の選択肢が整流作用と働いている。現況を問う。

〔A1〕 広島熊野道路は、平日で1日約9千台が利用。年間の料金収入は5〜6億円であり、予定どおり平成32年12月には償還できると聞いている。

〔Q2〕 永年、議会が国会陳情した安芸バイパス立体交差化が実現する。道路は、原則無料だが、完成するまで無料化を延期してはどうか。

〔A2〕 広島熊野道路の無料化に際しては、円滑な交通が確保されるよう県などに要望している。

〔事由1〕 現況で無料化すれば、矢野地区が大渋滞し、矢野住民や通

勤、通学する町民（4千500人）が大変な心身労を受ける。

〔事由2〕 有料売上を広島熊野に再投資し、魅力的な周辺整備ができる。

例えば、広島都市圏玄関口として空港リムジンが通る「筆街道」「道の駅」等。26年前の悲劇を繰り返さぬよう。

また、魅力ある熊野を望む良識ある町民には必ず賛同いただける。

時は地域創生。町長・議員が熱意と信念で行動すれば国の特区制度活用も可能ではないか。

〔A2〕 広島熊野道路の無料化に際しては、円滑な交通が確保されるよう県などに要望している。

Q 熊野第二小学校通学路における信号機新規設置を



尺田 耕平議員

A 〈町長・民生部長〉

深原公園入口交差点は優先的に、初神地区の北部農道入口については引き続き強く設置要望をしていく。

〔Q1〕 初神地区のビクトリーワン（パチンコ屋）の前の交差点と新宮地区の深原交差点の入口の交差点の2カ所だが、カーブで見通しも悪く、交通量の多い交差点で危険な通学路である。

〔A1〕 長年、地元住民とPTA等から要望をあげているにも関わらず、設置できない要因は、

要因としては、1日で考えるとそこまでの交通量はないと警察でも認識をもっている。

〔Q2〕 警視庁交通局長からの信号機設置の指針では「主要道の自動車等往復交通量が最大となる1時間の主要道路の自動車等往復交通量が原則として300台以上であること」が条件となっているが、通勤通学時間帯の交通量は、

深原地区庄賀付近の調査では、朝7〜8時の間が1千100台余り、その他の時間帯では700台で推移している。

〔A2〕 萩原地区庄賀付近の調査では、朝7〜8時の間が1千100台余り、その他の時間帯では700台で推移している。

〔Q3〕 筆の里工房の再開発・瀬野呉線バイパスの整備が計画されているが、2箇所の交差点については、工事車両の増加で、事故の発生率が上がると懸念されるが、仮に児童に人身事故が発生した場合、責任は自治体に発生しているか。

〔A3〕 道路は自治体が管理しているが、事故が起きたとき、直ちに自治体の問題であるという感覚はもっていない。

産業観光 まちの魅力

Q 自然に親しむ場の整備を



大瀬戸 宏樹議員

A 〈町長・副町長〉

機会を捉えて整備検討を進めていく。

〔Q1〕 アクセスの面でも利用者困っている。臨時便等を走らすことはできないか。

〔A1〕 アクセスは弱いが、事業等の充実を図っている。

現在の利用者数では、バス等の対策は難しい。（以前、シャトルバスを走らせたが、利用が少なかった。）工房の再開発後、検討したい。

〔Q2〕 工房への道路は根本的な整備が必要だ。また、北部農道を含む、県道に平行する三本の道路へ、南北方向からの整備が必要だ。

〔A2〕 過去、検討したが実現には至っていない。県道を補完する南北方向の町道整備は必要だと考えている。

〔Q3〕 トンネルの無料化により、本町の交通環境が悪化しないこと。

〔A3〕 県・市等で構成する協議会で積極的に関与したい。

〔Q4〕 トンネルに係る観点から県と本町では異なる。本町の考えをまとめる必要がある。

〔A4〕 県と町の違いはないと考えている。

〔Q5〕 ETC化について本町の考えは。

〔A5〕 県・国交省へ相談したことがある。設置費を要し、償還が延びることから諦めた。

〔Q1〕 熊野町の個性である豊かな自然を、多世代にわたって憩いの場や健康維持の拠点として、今以上に活用することが考えられる。

〔A1〕 総合計画に基づき、里山整備など、自然に触れ合う場の確保を進めているところで、自然環境を今後のまちづくりで生かしながら、機会を捉えて整備検討を進めていく。

〔Q2〕 筆の里工房周辺の整備の検討の中に取り入れられないか。

〔A2〕 親水公園に関しては、マムシなどの危険要因の問題を考えながら

ら検討している。また、トレッキングルートに関しても周辺市町と足並みを揃えて対応する。

〔Q3〕 町民の健康維持の観点からも、里山など自然の有効活用を念頭に置いて進めてもらいたい。

〔A3〕 努力していく。

